

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：34506

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2019

課題番号：15KK0065

研究課題名（和文）中世アルプス山間都市と周辺地域の政治社会（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Political Societies in Medieval Alps: Mountain Towns and Surrounding Localities (Fostering Joint International Research)

研究代表者

佐藤 公美 (Sato, Hitomi)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：80644278

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,200,000円

渡航期間： 6ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、一般にティロル南部で公正証書が後退してゆく15世紀後半のメラノの公証人レオナルドゥス・フェントの公証人登記簿を分析し、この時期の公証人文書の役割を検討した。分析の結果レオナルドゥスの公正証書の少なからぬ部分がメラノの年市での取引に関連することが明らかになった。顕著なのはバイエルン商人とトレンティーノの渓谷地帯、とりわけノン渓谷の商人との間の豚の取引である。これにより、インターリージョナルな織物市場として知られていたメラノの年市がアルプス周辺諸地域をつなぐインターローカルな市場としての性格も持ち、そこで公正証書が15世紀後半にも役割を維持していたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は第一にこれまで研究されてこなかったまとまった未刊行史料を分析し、中世ティロル南部の文書文化とその意義を解明することにより、現地メラノとトレンティーノ・アルト・アディジェ州および周辺地域の歴史学の進展に貢献した。またこの独特の法文化と文書文化をもつ地域の現実の解明は、アルプス周辺地域とヨーロッパの法文化史や政治文化史の理解に新たな要素をもたらし、比較研究の素材としても有益な事例を提供する。さらにメラノの年市の実態の解明は、ヨーロッパの近世化過程における地域経済と世界経済の関連動向を解明するためにも貢献すると考える。

研究成果の概要（英文）：This project analysed a series of notarial registers produced in Merano/Meran by Leonardus Vent in the second half of the 15th century, a period in which another type of document, i.e., the sealed documents, gradually prevailed. The analysis revealed that a considerable part of Leonardus's deeds related to the dealings in the Meranese annual fairs. Remarkably important was the buying and selling of pigs between the merchants from Bavaria and those from valleys in Trentino, especially the Non Valley. This fact sheds light on another aspect of Meranese fairs, which was known so far as inter-regional and trans-Alpine fairs of textiles and various merchandise. Meranese fairs were also inter-local fairs of livestock that put together micro-regions around the Alps, where the notarial deeds still maintained importance in the second half of the 15th century.

研究分野：中世イタリア史

キーワード：アルプス 地域市場 境域 ティロル南部 メラーノ/メラン 15世紀 公証人文書 メラーノ/メランの年市

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究計画の基研究では、アルプス山間地域における多元的法と政治文化の中で形成される実践的政治空間として、14・15 世紀ティロル南部(現イタリア、アルト・アディジェ地域)の都市を検討し、その過程で、これら山間都市の階層横断的ネットワークと広域的な政治的实践空間を支えた文書文化研究のため、これまで体系的な分析対象とされてこなかった都市メラノ/メラン(以下メラノ)の裁判帳簿と公証人登記簿を比較分析した。その結果、15 世紀中葉に両文書の作成と利用の方法に大きな転換があったことが明らかになった。裁判帳簿が部分的に公証人登記簿の機能を吸収しつつ、ドイツ法文化圏の中世後期の新慣行の記録媒体としても機能しその形式が確立したのである。しかしローマ法文化を基礎とする公証人登記簿も消滅せず 15 世紀後半を通じて存続する。従って法と政治文化の混交と共存の動態を明らかにするために、裁判帳簿の形式が確立した後の半世紀間の二つの文書文化の共存の実態を明らかにすることが重要であるが、報告者は基研究の過程で、メラノ市立古文書館が 15 世紀後半の公証人登記簿を多数保管していること、およびこれらの研究がこれまでなされて来なかったことを確認した。これらの公証人登記簿の調査と分析には現地での集中した研究と現地の専門家との協力が必要であると考え、本研究計画の作成に至った。

2. 研究の目的

本国際共同研究の目的は、15 世紀後半という中世ヨーロッパの国制史上も極めて重要な時期のティロル南部を対象に、ゲルマン法文化とローマ法文化に基づく二つの文書文化の相互補完的な二重存在と両者の混交の実態を明らかにし、中世ヨーロッパ政治文化研究に寄与することである。このような多元的法文化を持つアルプス地域の文書については近年新たな研究関心が浮上しているが(Giorgi et al., 2014) ティロル南部の公正証書についての研究は未だに数少ない。H・オーベルマイアの研究はボルツァーノを中心に、この地域で公正証書が衰退し代わって印章付き文書が優勢になっていった中世後期の動向と公証人の役割の変化を明らかにしている(Obermair, 2014)。また本研究期間中には、D・フリリによる中世メラノの公証人文書の全体的動向に関する研究も発表された(Fliri, 2018)。しかし公証人文書の衰退期とされる 15 世紀後半については、わずかな言及を除けば詳細な研究はなされておらず、その内容や地域の現実における公正証書の機能と役割は依然不明のままであった。本研究は、未研究の未刊行史料に取り組み、これまで知られていなかった実態を明らかにすることにより、結果的に衰退したという事実から遡及的に考えるのではなく、公正証書が全体的な数の減少と文書文化としての優勢を徐々に失う過程においてこそどのように変化に適応し、地域社会の現実の中でどのような役割を果たしたかに注目して史料を分析することを目的とした。

3. 研究の方法

1 で述べたように、メラノ市立古文書館には一般にティロル南部で次第に印章付き文書が優勢になり、公正証書が後退してゆく時期とされる 15 世紀後半の公証人登記簿が保管されている。同古文書館には、書式集や *ars notariatus* を含め全 72 冊が公証人登記簿として分類されているが(Archivio storico del comune di Merano [以下 ASCM], *Imbreviature notarili*, 1-69; ASCM, *Sammlung Karl Moeser*, nn.21-23) 本研究の主たる分析対象は、公証人レオナルドゥス・フェントの登記簿である。残存するフェントの登記簿は 1447 年から 1478 年までの期間に作成されたものであり、全 18 冊が存在する(ASCM, *Imbreviature notarili*, nn.48-65)。しかし解読が困難な上に部分的損傷も多く、これらの体系的な研究はこれまで行われていなかった。そのため現地での集中的調査研究を行い、現地の専門研究者による助言を受け、またこの貴重な史料に関する共同研究成果を活かして継続的な国際協力のネットワーク構築を行うため現地に渡航しての滞在研究を行った。

2018 年 3 月 27 日から 9 月 30 日にかけて、ブルーノ・ケスラー財団イタリア・ドイツ歴史学研究所を受け入れ先として渡航し、渡航期間中はメラノ市立古文書館をはじめ現地古文書館や図書館における資料調査と専門家との研究相談を行った。まずはメラノ市立古文書館所のレオナルドゥス・フェントの公証人登記簿を順次閲覧して転写と写真撮影を行い、全体的な展望を得た後、渡航期間中には特に最も早い二冊については集中的に分析を行った。この作業を進めつつ、随時関連する可能性のある他類型の史料(裁判帳簿、証書、都市参事会関連文書等)を閲覧、転写、撮影し、作業中は同古文書館員より随時助言を受けた。

また、4(2)で後述するように、研究の過程でフェントの公証人登記簿がメラノの年市研究に資することが明らかになったため、この年市に関する史料の調査を行った。一部はメラノ市立古文書館に、一部はトレント県立古文書館所蔵のトゥン家文書の中に関連史料が存在することを確認し、これらの調査と史料撮影を行った。さらに、未刊行史料の調査と並行して刊行史料および文献調査をブルーノ・ケスラー財団、トレント市立図書館、ボルツァーノ県立図書館、トレント大学等で行った。

また、研究協力者であるマルコ・ベッラバルバ准教授及びハンネス・オーベルマイア氏と定期的に面会し、研究状況の報告と共有を行い助言を受けた。ハンネス・オーベルマイア氏からは古文書読解の指導と助言も受けた。さらに関連する専門分野の専門家と面会し随時助言を受けた。マルコ・ベッラバルバ氏とは国際協力のネットワーク構築について随時相談し、2019 年 2 月 19 日にトレント大学で行ったセミナー及び 2019 年 6 月 30 日に甲南大学で行ったセミナーの準備

を行った。

4. 研究成果

(1) 当該時期のメラノ市立古文書館の所蔵登記簿数の年代別変遷には同じティロル南部のボルツァーノ文書残存状況との間に大きな差異があり、ボルツァーノで減少局面に入る時期にもメラノでは増加しており、14世紀後半以降の公証人文書の減少をティロル南部全体について直ちに結論づけることはできない。また、14世紀末から15世紀のメラノの公証人の活動状況を確認すると、それまでは2～3人の公証人が同時に活動していた一方、15世紀半ば以降はレオナルドゥス・フェントの独占的活動となっている。そこでまずはフェントの登記簿に記録されている契約内容と、その推移を確認し分析した。

圧倒的多数を占めるのは売買契約公正証書であり、次いで債務弁済約束公正証書、売戻契約公正証書、賃貸借契約公正証書等が続く。これらの時間に沿った推移を見ると、1469年から1476年ごろを分水嶺として、全体としての総登記数は減少し、特に売買契約公正証書が大幅に減少している。これに対して遺言公正証書が増加を示す。即ち、この時期を境にフェントの登記簿は動産・不動産の売買や賃貸借契約の登記簿としての機能を縮小し、遺言登記簿としての役割が増大したと言える。

1460年代はメラノで現存最古の裁判帳簿(Verfachbuch)が登場した時期と重なる。そこで変化の要因を考察するために、1468年から1471年の裁判帳簿(Huter, 1990)との登記内容の比較を行った。その結果、少なくとも公証人登記簿と裁判帳簿が併存している1470年に関しては、双方に登記された総契約数は公証人登記簿総登記数減少以前の水準とほぼ等しいことが確認され、従って裁判帳簿への登記の移行が公証人登記簿登記数減少の原因であることが推定される。

裁判帳簿への移行の要因としては、1460年代以降のティロル伯領の行政制度の整備により、ティロル城伯がエッチュ地区長官を兼任しメラノ市参事会との緊密な協力関係を構築し、都市メラノが領邦ティロルの行政市システムの影響を受けたことに加え、裁判帳簿にはラント法への言及が多く見られ、人々がラント法による保護を求めたことが想定される。

(2) 分析の結果、次いでレオナルドゥスの公正証書の中で特徴的なものは、債務弁済契約公正証書である。割合は全体を通して11～19パーセントを占めるが、1447年と1448年について詳細な分析をした結果、契約月日が聖霊降誕祭と聖マルティーノの祝日の前後に行われる年2回のメラノの年市の時期に集中していることが明らかになった。したがって、レオナルドゥス・フェントの公証人登記簿は、年市研究のための史料として利用可能となる。

メラノの年市はボルツァーノの年市に比べ研究が不足しているが、15世紀後半以降衰退し、ボルツァーノの年市に道を譲るとされてきた。しかし史料の欠落もありこれまではその実態は十分に明らかにされてこなかった。

そのような中、近年のE・デモの研究(Demo, 2018)が、織物を中心に革製品や銅などの商品を比較的大規模に扱うヴェネト商人の活動を明らかにし、メラノの年市がこの時期にも一定の機能を維持したことを推定していた。

本研究におけるフェントの公証人登記簿の分析の結果、これに限られない新たな側面が明らかになった。顕著なのは、バイエルン商人とトレンティーノの溪谷地帯、とりわけノン溪谷の商人の間の豚の取引である。売り手がバイエルン商人であり、買い手がノン溪谷等の出身者であるが、取り扱われる商品の圧倒的多数がバイエルンから運ばれる豚である。

支払い期限はそれ以降のボルツァーノ又はメラノ、まれにトレントの年市に設定されている。従ってメラノの年市はトレンティーノからティロル南部の複数の年市に通う商人の経路の一環として機能していたことになる。

これらの分析結果を総合から、メラノの年市の機能の二重性が浮かび上がった。ヴェネト商人やロンバルディア商人が参入し、比較的規模の大きな取引が行われるインターリージョナルな織物市場としてのそれと、おそらくは買い手のローカルな地域内消費に向けられたであろう家畜市場としてのそれである。本研究は、メラノの公正証書がこのようなローカルな経済を結合するインターローカルな取引を行う、アルプス南北の諸地域の間で意味を持つ文書として機能していたことを明らかにした。

上記(1)(2)の研究成果は、トレント大学で2019年2月19日に開催されたセミナー Seminario disciplinare. Il notariato nelle Alpi medievali: ricerche a confronto において招待講演 'Il notariato meranese della seconda metà del Quattrocento. I registri del notaio Leonardo Vent' として発表した。ついで、研究協力者のハンネス・オーベルマイア氏との共著で、本研究プロジェクトの紹介を兼ね研究成果の一部をまとめた論文 'Il notariato di Merano nel secondo Quattrocento. A proposito del progetto di ricerca Political Societies in Medieval Alps: Mountain Towns and Surrounding Localities (Fostering Joint International Research)' をイタリアの専門誌 Studi di Storia Medioevale e di Diplomatica, n.s. III (2019) に公表した。

(3) 上記(1)(2)の研究成果を踏まえ、在外研究の成果を国内に還元し継続的な研究協力のネットワークを構築することを目的に、2019年6月30日に英語での学術セミナー「アルプス史研

究セミナー「中・近世アルプスにおける社会・文化・政治空間」を開催した。研究協力者のマルコ・ベッラバルバ氏とハンネス・オーベルマイア氏と佐藤公美の3名が口頭報告を行い、日本のアルプス史研究者によるコメントを得て活発な討論を行った。またこの時のマルコ・ベッラバルバ氏の講演を佐藤公美が日本語訳したものを「新たな空間の創造 近世ティロルとオーストリアの貴族」として『甲南大學紀要 文学編』第170号に公表した。

レオナルドゥス・フェントの公証人登記簿の詳細な分析と、渡航期間中に公証人登記簿との関連が明らかになったメラーノ年市の研究は現在も継続中である。日本の研究助成により貴重な史料の研究が行われたことには現地の研究者や古文書館からも好意的な反応を得ている。また、集中的な滞在研究によって、メラーノ市立古文書館の研究を深めるべき関連史料の状況や、国境、州境、県境を越えて各地に分散する関連史料の状況についても新たな調査結果を得ることができた。継続的な研究を進めたいと考えている。

< 引用史料 >

- Archivio storico del comune di Merano
Imbreviature notarili, 1-69
Sammlung Karl Moeser, nn. 21-23.
- F. Huter, (ed.), *Das älteste Tiroler Verfachbuch (Landgericht Meran 1468-1471), aus dem Nachlaß von Karl Moeser*, Innsbruck, Universitätsverlag Wagner, 1990.

< 引用文献 >

- E. Demo, 'Il ruolo di Merano nei traffici commerciali tra l'area tedesca e l'Italia settentrionale (secc. XIV-XVI). Nuovi documenti e spunti di ricerca', in G. Pfeifer (ed.), *1317-Eine Stadt und ihr Recht. Meran im Mittelalter/1317-Una città e il suo diritto. Merano nel Medioevo*, Bolzano, Athesia Verlag, 2018.
- D. Fliri, 'Das Meraner Notariat im Spätmittelalter', in *1317-Eine Stadt und ihr Recht*, pp. 213-228.
- A. Giorgi, S. Moscadelli, D. Quaglioni, G.M. Varanini (eds.), *Il notariato nell'arco alpino. Produzione e conservazione delle carte notarili tra Medioevo ed Età Moderna*, Milano, Giuffrè Editore, 2014.
- H. Obermair, 'Il notariato nello sviluppo della città e del suburbio di Bolzano nei secoli XIII-XVI', in *Il notariato nell'arco alpino*, pp. 293-322.
- H. Sato, H. Obermair, 'Il notariato di Merano nel secondo Quattrocento. A proposito del progetto di ricerca Political Societies in Medieval Alps: Mountain Towns and Surrounding Localities (Fostering Joint International Research)', *Studi di Storia Medioevale e di Diplomatica*, n.s. III (2019) (URL: <https://riviste.unimi.it/index.php/SSMD/article/view/12639/11835>), pp. 373-384.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hitomi Sato, Hannes Obermair	4. 巻 n.s.III
2. 論文標題 Il notariato di Merano nel secondo Quattrocento. A proposito del progetto di ricerca Pilitical Societies in Medieval Alps: Mountain Towns and Surrounding Localities (Fostering Joint International Research)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studi di Storia Medioevale e di Diplomatica	6. 最初と最後の頁 373-384
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.17464/9788867743612	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 マルコ・ベッラバルバ著、佐藤公美訳	4. 巻 170号
2. 論文標題 新たな空間の創造 近世ティロルとオーストリアの貴族	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 甲南大學紀要 文学編	6. 最初と最後の頁 159 - 166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 4件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Hitomi Sato
2. 発表標題 Il notariato meranese della seconda meta' del Quattrocento. I registri del notaio Leonardo Vent.
3. 学会等名 Seminario disciplinare. Il notariato nelle Alpi medievali: ricerche a confronto. (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hitomi Sato
2. 発表標題 Fairs and Interlocal Networks in Southern Tyrol and beyond
3. 学会等名 アルプス史研究セミナー：中・近世アルプスにおける社会・文化・政治空間（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Marco Bellabarba
2. 発表標題 Forging a new space. The Tyrolean and Austrian nobilities in the Early Modern Period
3. 学会等名 アルプス史研究セミナー：中・近世アルプスにおける社会・文化・政治空間（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hannes Obermair
2. 発表標題 The Use of Records in Medieval Towns: The Case of Bolzano, South Tyrol
3. 学会等名 アルプス史研究セミナー：中・近世アルプスにおける社会・文化・政治空間（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究者詳細 - 佐藤公美 - 甲南大学 http://researchers.adm.konan-u.ac.jp/html/100000340_ronbn_1_ja.html 佐藤公美 研究者 researchmap https://researchmap.jp/hitomi_s/ Hitomi Sato Konan University-Academia.edu https://konan-u.academia.edu/HitomiSato</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ベッラバルバ マルコ (Bellabarba Marco)	トレント大学・文哲学科・准教授	兼ブルーノ・ケスラー財団・イタリア・ドイツ歴史学研究所・フェロー

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	オーベルマイア ハンネス (Obermair Hannes)	ユーラック・リサーチ・ユーラック・リサーチ・上席研究員	渡航期間中の所属は南ティロルミュージアムズ